



# Domaine Bienaimé

ドメーヌ・ビアンネメ

国・地域	: France, Jura	フランス、ジュラ
地区、村	: Saint-Lamain	サン・ラマン
醸造・栽培責任者	: Bruno Bienaimé	ブリュノー・ビアンネメ
HP / SNS	: <a href="https://domainebienaime.netlify.app/">https://domainebienaime.netlify.app/</a> <a href="https://www.instagram.com/bienaimebruno/">https://www.instagram.com/bienaimebruno/</a>	

## ワイナリーと造り手について

ドメーヌ・ビアンネメは、ジュラ県中部、サン・ラマンに拠点を置く生産者である。当主のブリュノー・ビアンネメは、シャンパーニュ地方アヴィーズの醸造学校で BTS（農業上級技術者資格）課程を学び、その実習生としてシャンパーニュ・ジョルジュ・ラヴァルで 2 年間研修を積んだ。課程修了後も同ワイナリーに 6 年間勤務し、当主ヴァンサン・ラヴァルのもとで経験を重ねる。名人のもとでの日々は、ブリュノーに「ブドウ畑を耕す」とはどういうことかを教えた。それは、忍耐と謙虚さをもって畑に向き合い、介入を可能な限り控えるという姿勢である。

2016 年、彼はシャトー・シャロン北部に位置する、人口 120 人ほどのサン・ラマン村を本拠地と決め、ジュラでのワイン造りを始めた。しかし創業当初から、干ばつ、



遅霜、ベト病など、年ごとに異なる厳しい気候条件に見舞われ、収量減に悩まされる年が続いたため、将来を見据え実験的に新しい品種を植えることを考えるようになる。ジュラ地方でも 35°C を超えることが珍しくなくなった中で、高温かつ乾燥した気候に適応しうるヴィティス・ヴィニフェラ種は何か。そう考え抜いた末に選んだのが、ギリシャ原産の白品種アシルティコ。2025 年に 0.5ha を植樹した。時間をかけて慎重に考え、いざ行動すると決めたなら大胆に踏み出す彼の姿勢がうかがえる選択である。

## 畑と栽培について

3.5ha の区画を所有し、Agriculture Biologique、通称 AB 認証を取得。ジュラの土壌は、フランスでもとりわけ複雑なもののひとつであり、青色粘土、マルヌ、石灰質から成る。この地質の多様性が、ワインに独自の個性と高い熟成能力をもたらす。

栽培品種はシャルドネ、サヴァニャン、トゥルソー、ピノ・ノワール、そしてアシルティコの 5 種。彼が新しく植えた畑以外は 1942~1980 年代植樹と、樹齢が高い。

## セラーと醸造について

地上階、石造りのセラーは 1 年を通して醗酵と熟成に適した温度を維持。醸造は自然酵母で発酵。ブドウとワインそれぞれの状態次第で、醗酵前と瓶詰前に亜硫酸を添加する。

「セラーでは、私は自分の存在を消すことを心がけている」と、ブリューノ。

